## コウハウジングの日本での必要性

### １．日本の子育て、孤独な暮らし

- 少子高齢化社会
- 家族像の内・外での変化→家族の崩壊・孤立化
- 人間関係不在→コミュニケイションの出来ない人の増加
- モノ信仰の社会→　アイデンティテイの未成熟　自立できない子どもと大人
- コミュニケイションを取らせない・住宅・プライバシーばかり尊重するマンション
- 地域社会の消滅

↓

**家族育て・子育て・地域育ての出来る住まいと暮らしの必要性**

### ２．コウハウジングについて（コミュニティとプライバシーのある暮らし）

- コウハウジングとは…子育て中の家族や一人暮らし、高齢者など様々な人たちが人間関係や安全性、そして助け合いによる暮らしの豊かさを求めて始めた住まい方。
- デンマークで生まれ、1988 年アメリカに持ちこまれ、米国に合う形に変化しながら作られ現在全米で３９ヶ所にあり、今年新たに６０ヶ所が建設中である。
- 住む人は宗教・ｲﾃﾞｵﾛｷﾞｰ・民族によって参加者が成り立っているのではなく、自立と共生を望むごく普通の人々が参加している。

### ３．家族を共に育てる（共育）住まい方コウハウジングの特徴

- 事業への居住者の参加
- 多世代共住
- 共同の施設を持つ
- 住民が共同で管理を行う
- エコロジカルデザイン
- 共同食事によるコミュニケイション

### ４．生活者にとって・デベロッパーにとってのメリット

生活者にとってのメリット

- プライバシーが確保された自宅と安全で信頼できる近所の両方を手に入れられる。
- 片親家庭・高齢者・障害者も共に自立した、社会生活がおくれる。
- 子どもを地域で育てることが出来る。
- 事業へ参加することで、開発ノウハウを得られる。

デベロッパーにとってのメリット

- 開発前から入居者を確保できる…営業がいらない。
- コーポラティブと違い戸別の設計はいらない。
- 事業総額が少なくて済む。

## ５．日本で考えられるコウハウジング開発の方法例

① 高齢者が増え空家が多くなった郊外戸建て団地の再生利用コウハウシング
（北米の事例：バークレーコウハウジング・Ｎストリート）

② 市街地の定期借地権を利用した戸建て団地コウハウシング
（北米の事例：ノマドコウハウジング）

③ 生活弱者も共に暮らすグループホームコウハウシング
（北米の事例：ケンブリッジコウハウジング）

④ 別荘地の永住型宅地分譲コウハウシング
（北米の事例：シェアリングウッド・コウハウジング）

⑤ 賃貸マンションの再生コウハウシング
（北米の事例：カーディフプレイス・コウハウジング）

⑥ 郊外団地開発のコアプロジェクト
（北米の事例：ミュアコモンズコウハウシング・ハーモニービレッジ）
などが考えられる